

～うきはの“地の利”、“人の利”、“時の利”を伝える～

「うきはブランド通信」

U B C ~ukiha brand communication~



平成 30 年 4 月 26 日
福岡県うきは市



(報道各社への取材の御案内)

～江戸時代の灌漑用水「大石長野水道」通水から 354 年～ 地域で受け継がれる“感謝”、100 回目を迎える「五庄屋追遠会」



筑後川流域の干ばつに苦しむ農民を救うため、江戸時代(寛文4年・1664)、吉井町江南の5人の庄屋が中心となり、灌漑用水「大石長野水道」を構築し、筑後川から水を引き田畑に水が行き渡り、米麦の生産が盛んになった。大正7年、通水が始まった5月2日、「五庄屋追遠会」を開催して以来、地域の各界から集い毎年開催されてきた。

100 回目となる今回は、地元の町づくりグループ「白壁レディース21」による紙芝居「五人の庄屋」が特別上演される。

○行事 「五庄屋追遠会」

○日時 5月2日(水)午前10時から (1時間予定)

○場所 江南小学校体育館(うきは市吉井町八和田774-1、Tel.0943-75-2353)

○次第 1開式 2黙とう 3会長式辞 4追悼のこたば 5献花

6五庄屋の歌(江南小学校校歌)奉納 7紙芝居「五人の庄屋」上演
8主催者あいさつ 9閉式

●問い合わせ うきは市農林振興課農政係 Tel.0943-75-4975

江南小学校 校歌

作詞 大和田 建樹 作曲 田村 虎蔵

一 寛文初年の頃とかや いでこの民を救わんと
慨然死をもって誓いたる この地に五人の庄屋あり

二 夏梅、清宗、菅、高田、及び今竹五か村の
庄屋はここに差し出す 水道工事の請願書

三 水もし引くに來たらずば 皆一同にはりつけの
刑罰その身に受くべしと 壮んなるかなこの言や

四 至誠は人を動かして 許しの下る村口に
早たてらるる仕置台 見るに励まぬ人ぞなき

五 矢よりもはやき筑後川 さかまく波とたたかいて
岩切りうがち水をせく その辛その苦そもいかに

六 百難万艱排し得て 開きし長野と大石の
井堰に命を救わるる 田の面は二千百余町

七 千古の偉業功成りて 下りし賞与の数々も
五人は辞して皆受けず 誰かは高義に泣かざらん

八 尊き歴史は我が村の 無窮の誉れ散らぬ花
御霊は永く祀られて 守るか民の幸いを

編集・送信:うきは市総務課広報係(Tel.0943-75-4980)

※FAX を手にとられた方は、「うきは市ホームページ」掲載のカラー版を御覧ください→検索 うきはブランド通信

2018. 4. 26 発表 / 「大石長野水道」通水から 354 年～100 回目を迎える「五庄屋追遠会」